

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の 特徴	H24年5月に開設。1階に小規模、サテライト型特養、地域交流スペース、キッズルームが併設されている。地域の方も気軽に利用できるスペースがあり、フリーカフェを行なっている。地域の中の施設としての特性を活かせるよう、利用者の想い、希望、ご家族や多職種との連携を図りながら、生活が継続できるよう取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能型居宅介護川崎	管理者	南雲 千鶴		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	2 人	人	人	1 人	1 人	3 人	2 人	11 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>●虐待、身体拘束について、再度、研修にて情報共有し、理解を深め防止に努めていく。</li> <li>●初期支援について、事前情報の情報共有、サービス開始後は、利用者、家族との職員の顔つなぎ、援助内容の確認を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●虐待、身体拘束についてはミーティング等で研修を行い情報共有している。今後も継続していく。</li> <li>●初期支援については、事前の情報の共有を行い援助内容の確認もペアで行なっている。今後も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●当事業所運営に具体的に実効性を持って生かされる評価をした方がよい</li> <li>●評価項目の「あまり出来ていない」「ほとんど出来ていない」の人数が多いものがある。その要因は何か、具体的な解決策を立てて欲しい。</li> <li>●当該事業所の実体に則した評価項目を設定するべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別のモニタリングで評価する際に利用者の「～したい」の目標に対し、日々の関わりを振り返り、目標達成を目指した関わりが出来る様にしていく。</li> <li>●本人にとって必要だと思われる地域資源について、家族との関係性を密にしながら、情報収集及び把握に努め支援における活用を検討していく。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営推進会議、フリーカフェ、行事等にて、事業所を知って頂くため、事業所説明会の機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所を知って頂く為、行事や回覧板等を活用しフリーカフェや事業所の説明を行ったが、知っている方がまだ少ない為、今後工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受け付けがあると良い、職員がいるかどうかわからない。声をかけやすい配慮が必要。</li> <li>●川崎はきれい居心地が良いと感じる。</li> <li>●地域の方達が地域交流スペースを使用出来ることを知っているのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウェルカムボードを設置するなどして、サポートセンターに入りやすくするための案内を掲示する。</li> <li>●定期的に町内の班長会議に出席し、毎月のサポートセンターの行事などを周知することで、地域交流スペースが活用出来る事を知ってもらう。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所のことを知って頂けるよう、フリーカフェを実施し、地域住民との交流につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町内の班長会議で地域交流スペースの活用方法の説明。地域包括支援センター主催の脳トレ教室の開催を定期的実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「地域の方に事業所は知られているか？」について地域の方も知らない人がいる、知ってもらえるように。</li> <li>●川崎6丁目目さんあたりがセンターを活用し深く関わって行くことが必要。</li> <li>●知ってもらうには対象を広範囲にするより、ロコミの方が効果がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域交流スペースを使用して、講習会の定期的な実施。</li> <li>●地域行事に併せてサポートセンター川崎でも同等な行事を開催し地域へ周知していく。</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の行事、イベントに冬場、夕方等にて参加が困難な為、日中に外出等計画(ドライブ、買い物等)し、外出機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●季節の良い時にはドライブ等の外出やセンター周りの散歩と外出の機会も作る事が出来た。今後もニーズを聞きながら対応していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行事・イベントに参加する際、スタッフの負担は大丈夫なのか？</li> <li>●住んでいた地域の祭りに参加、お孫さんなどの学校に行く事が出来たら良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安全を確保した上で、外出の機会を出来るだけ設けていく。</li> <li>●地域の祭りや学校の行事等に参加出来るような関係性を作り、地域の方と利用者が関わる環境を作っていく。</li> </ul>

E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域での心配のある方等の事例検討において、包括との連携と、個人情報、プライバシー含めて事例の検討、確認を行なっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例検討まではできなかったが、地域の方からの相談もあり、結果小規模利用に繋げる事が出来たケースを会議で報告することが出来た。今後も地域の問題を情報共有出来る場を作っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「地域での心配な方の事例検討」について検討より情報交換の方が大切ではないか？</li> <li>●事業所自己評価の項目に関わる内容を推進会議でも課題としてとりあげるべきではないか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域との関係性や協力体制を作り地域の課題等の情報収集・共有出来る話し合いの場を設けていく。</li> <li>●ご利用者が住んでいる地域の実情を知り、インフォーマルな方達との連携を強化していく。</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●防災計画について、運営推進会議にて説明、内容について提示し、地域の方にも知って頂く。</li> <li>●防災訓練等、参加、見学をして頂く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営推進委員の方に防災に関してはきちんとした説明や訓練等を行なうことが出来なかった為次年度はきちんと出来るよう計画をたてていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民の具体的な協力・支援体制が災害発生時等の際に確保できるのか？</li> <li>●災害時には消防署・地域の登録されている方に、緊急時に連絡が自動的に行くことになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●防災訓練実施時には地域の協力を依頼できる体制を作る。また、地域の自主防災会の活動に併せて協力できる活動を検討し実施する。</li> </ul>